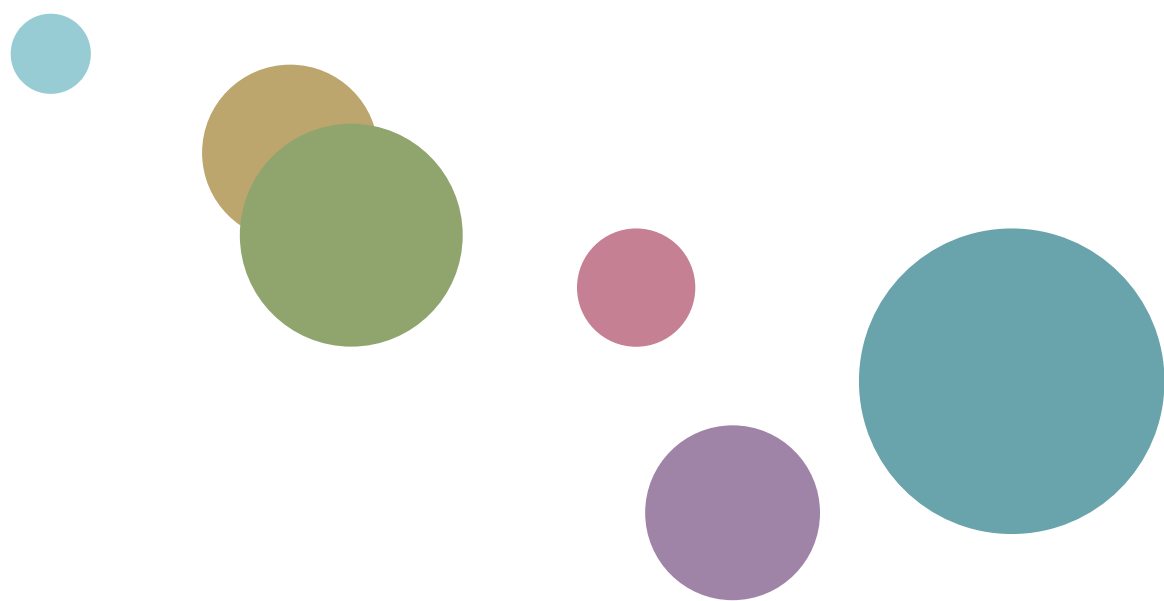


図書館と
県民のつどい
埼玉 2024
記録集



2024年12月8日（日）
桶川市民ホール・さいたま文学館

埼玉県図書館協会

はじめに

「図書館と県民のつどい埼玉」は、皆様に「本に興味を持っていただきたい」、「図書館について知っていただきたい」という思いから始まった県内最大級の図書館イベントです。図書館関係者と県内、県外からいらっしゃった多くの皆様がつどい交流する場として、2007年度から毎年開催しています。

18回目となる今回は、2024年12月8日（日）に作家の万城目学さんによる記念講演、出版社によるおすすめの児童書紹介や県内の公共・高校・大学図書館等による展示など、本や図書館に関わるイベントを実施し、延べ3,266人の皆様にご参加いただきました。また、「中学生のビブリオバトル」を予選・決勝ともに11月14日（木）（県民の日）に開催しました。「県庁オープンデー」の中で一般公開した決勝には、観客として多くの方に足を運んでいただくことができました。

本冊子では、「図書館と県民のつどい埼玉 2024」の様子を紹介いたします。

■ 万城目学さん記念講演「読書ときどき執筆の日々」	1～2
■ 中学生のビブリオバトル	3～4
■ こども読書活動交流集会	5～8
● 出版社が紹介！おすすめの児童書 2024	
● 紙芝居基本講座（講師：日下部 茂子さん）	
■ 展示	
● 公共図書館部会による展示	9～12
万城目学さん著作展示	
みんなで楽しもう！埼玉のスポーツ	
ボードゲーム体験スペース	
ブックケア 未来へつなげる保存の技術	
読書のバリアフリー資料展～広がれ！読書の多様性～	
● 高校図書館部会による展示	13～15
のぞいてみよう高校図書館	
ポップアップポップ展示	
ポップアップクリスマスカードづくり体験	
数字で見る高校図書館 2024	
埼玉県の高校司書が選んだイチオシ本 2023	
● 「プチホール」内の展示見取図	16
● S A L A 加盟図書館所蔵資料展示会	17～21
■ 協賛	22
■ 関係者名簿	23～24
■ 開催要項	25～27

図書館と県民のつどい SAITAMA

2024 直木賞作家 万城目学さん記念講演

読書ときどき執筆の日々

10:40～12:00 **要事前申込** **先着順**

出版社が紹介！おすすめの児童書2024

紙芝居基本講座～紙芝居の魅力と演じる喜び～

万城目学さん記念講演

ポピー参加無料

みんな県内最大級の

ブックフェア

埼玉の高校図書館司書が選んだイチオシ本2023

ポップアップポップを活用した図書館展示紹介

ポップアップクリスマスカードの作成

数字で見る高校図書館2024

など



著作「鴨川ホルモー」
「八月の彫彫グラウンド」など

2024.12.8 (日) 10:00～16:00
桶川市民ホール・さいたま文学館

埼玉県図書館協会 (埼玉県立熊谷図書館内)
お問合せ ☎048-523-6291 | 📧k2362911@pref.saitama.lg.jp
【登録がき送料先】〒360-0014 熊谷市箱田5-6-1 埼玉県立熊谷図書館「つどい」棟
主催 埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県立熊谷図書館協会、埼玉県立高等学校図書館協会、熊谷・さいたま文学館、熊谷・熊谷南、熊谷市教育委員会、NHKさいたま放送局、FM NACK5、テレビ、公民館法人日本教育出版(弘済会埼玉支部)、埼玉大学、昭和大学図書館協議会(SALA)、埼玉県書誌委員会、一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)、公民館法人文字・活字文化事業機構、協力 公民館法人日本教育出版(弘済会埼玉支部)、株式会社文芸春秋、埼玉県出版文化センター2024協議会、株式会社印刷屋、キハチ株式会社、埼玉県印刷、社会福祉法人埼玉福祉会、NetCo LLC (ネットキャリア)、株式会社アプア社、一般財団法人VA出版会

図書館と県民のつどい埼玉 2024

2024.12.8 sun 10:00-16:00 場所/桶川市民ホール・さいたま文学館

「図書館と県民のつどい埼玉」は、本に興味を持っていただきたい、図書館について知っていただきたい、という思いから始まりました。県立・市町村・高校・大学等の図書館や、活字文化に関わる団体が協力して開催する県内最大級の図書館イベントです。今年のテーマは「ひらけ、別世界！」。あなたはまだ知らない世界に出会えるかもしれません。

年に1度、県内最大級の図書館イベント！

万城目学さん記念講演
「読書ときどき執筆の日々」
10:40-12:00 定員 700名
要事前申込 **先着順**

1976年大阪府生まれ。京都大学法学部卒業。2006年に『鴨川ホルモー』でデビュー。同作のほか、『龍男あをによし』『盛大なる、しゅららぼん』『プリンセス・トモトミ』が次々と映画化されるなど、大きな話題に。24年『八月の彫彫グラウンド』で第176回直木三十五賞を受賞。最新作は『六月のぷりぷりぎっちょ』。

紙芝居基本講座
～紙芝居の魅力と演じる喜び～
13:30-15:30 定員 30名
要事前申込 **抽選**

講師：日下部茂子氏 (編纂者・大学講師)
紙芝居未経験者・初心者の方に向けた講座です。紙芝居の魅力とは何か、絵本との違い、遊び方、演じ方など、紙芝居の基本について実演を交えてお話していただきます。

出版社が紹介！おすすめの児童書2024
14:00-16:00 定員 150名 **申込不要**
児童書を発行している出版社の皆様に、おすすめの本を発表していただきます。2024年に出版する児童書の中からイチオシの本を、おすすめポイントや出版秘話とともにご紹介！

申込方法 (記念講演、紙芝居講座)
○ WEB
下記のページからお申し込みください。
https://www.saitaib.net/tudoj2024
○ 往復はがき
以下の内容を明記の上お送りください。
① 申込イベント名
② 参加者全員の氏名 (1枚につき4名まで)
③ 代表者の住所・電話番号
【送付先】 〒360-0014 熊谷市箱田5-6-1
埼玉県立熊谷図書館「つどい」係

申込期間
記念講演 10月1日(火)～11月30日(土)まで、先着順
紙芝居講座 10月1日(火)～11月5日(火)まで、抽選

展示・体験さまざまな図書館展示
10:00-16:00 **申込不要** **自由観覧**

- 公共図書館
■ ボードゲーム体験スペース
■ みんなで楽しもう！埼玉のスポーツ
■ 万城目学さん著作展示
■ ブックフェア 本業へつながる保存の技術
■ 読書のバリエーション資料展～広がる！読書の多様性～
- 高校図書館
■ ポップアップポップを活用した各校図書館展示紹介
■ ポップアップクリスマスカードの作成
■ 数字で見る高校図書館2024
■ 埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2023
- 大学図書館
■ SALA加盟図書館蔵資料展示会
SALA学生有志協働団体、国際学院埼玉短期大学、国立女性教育会館、城西大学、女子栄養大学、聖学院大学、獨仙大学、文政大学、山村学園短期大学、立正大学



公式SNS 最新情報ははこちらから
Xアカウント @spla_tudoj Instagramアカウント spla_tudoj



記念講演

万城目学さん記念講演 「読書ときどき執筆の日々」

■はじめに

記念講演では、作家の万城目学(まきめ まなぶ)さんに、お話しいただきました。

万城目さんは、1976年大阪府生まれ、京都大学法学部卒業。2006年に『鴨川ホルモー』でデビューされ、その後『鹿男あをによし』、『偉大なる、しゅららぼん』、『プリンセス・トヨトミ』が次々と映像化されるなど、大きな話題となりました。また、今年(2024年)『八月の御所グラウンド』で第170回直木三十五賞を受賞されました。

会場である桶川市民ホールは収容700人の大きなホールですが、今回の講演会は告知当初から多くの方に参加の申込みをいただき、本来の締め切りより3週間も早く満席となりました。当日も朝からたくさんの方が来場され、会場は熱気に包まれました。



■埼玉県とのご縁

『八月の御所グラウンド』に収録されている「十二月の都大路上下ル」を書くために、駅伝の地方大会を取材されたそうで、その取材先のひとつとして、埼玉県熊谷市で開催された大会も見学されました。埼玉県以外にも各地の地方大会をめぐり、取材に大変な労力をかけた作品だったそうです。

■直木賞について

2007年第137回に『鹿男あをによし』が候補となってから、2024年に『八月の御所グラウンド』で受賞されるまでの思い出や、はじめてのノミネートについての話、日常空間に非日常が溶け込んでくる万城目さん作品の特徴に対する評価の変化などを、ユーモアを交えて語っていただきました。

受賞が決まった際には、あらかじめ伝えてあった本人の電話に電話がかかってくるそうで、本人であることが確認された上、受賞が伝えられるそうです。ふだん聞くことができない裏話に会場はどっと沸きました。

■創作の内側

万城目学さんの小説は「万城目ワールド」と評され、奇想天外な非日常性を持ち込むファンタジー小説です。次にお話しいただいたのは、そのストーリーがどうやって生まれるかというお話でした。

ストーリーを考える際には、結末から考えているのだとか。玉ねぎやゆり根を一度全部むいてしまっ、芯を出し、そこにもう一度皮をかぶせて、むいてゆくような感じ。結末が決まっているから、途中で伏線を入れることが容易にできるのだそうです。

雑誌連載は、読み切りから始めたそうです。雑誌連載の難しさは、一度発表してしまうと、戻って直すことができないところにあります。過去に聞いた失敗談として、長編小説の連載で、死んだはずの登場人物を、後の回において、死んだことを忘れて再び登場させてしまったことがあった(!)というエピソードも披露していただきました。

■「赤毛連盟」

とつぜん、「シャーロック・ホームズ」シリーズ「赤毛連盟」のお話が始まりました。

シャーロック・ホームズのところに、質屋を営む赤毛の男が、自分の身に起こった不思議

議なできごとの相談に来ます。その男は、赤毛連盟に欠員が出たので、入会しないかと自分の店の若い店員に誘われます。赤毛連盟に入会すると、毎日一定の時間、事務所で百科事典を書き写すだけで、週に4ポンドもらえるのだそうです。そして、事務所に通っていたのですが…。

この話が明治32(1899)年に日本で翻訳された時に、当時の日本人に「赤毛」では通じないのではないかと、「赤毛」が「禿頭」と変えられたそうです。店員の誉め言葉「いい赤毛ですね」が「いい禿頭ですね」となります。

万城目さんは明治32年の日本語訳を森見登美彦さん、上田誠さんとともに翻案(リライト)し、『V3』(万筆舎 2024)としてBOOTHというウェブサイトから出版されました。

このサイトは、同人誌なども販売できる創作物の総合マーケットで、万城目学さんはひとり出版社「万筆舎(マンピツシャ)」を運営されています。ぜひ、本を買ってください!という万城目さんの呼びかけに会場は大いに盛り上がりました。

■おわりに

来場者アンケートでは、「面白かった」「万城目さんの人柄が伝わってきた」「もっと聞きたかった」という感想が何人もの方から寄せられました。講演会終了後は、万城目さんの著作展示や各部会の展示をていねいにご覧いただきました。本当にありがとうございました。

<県立図書館で読める万城目さんのコラム>

・「待ち会戦記」(『オール読物 第73巻3号』p100-107 文藝春秋 2024.4)

2007年から2024年受賞にいたるまでの直木賞「待ち会」について、万城目さんがユーモラスに綴っています。

・「明治32年のホームズ 作家 万城目学」

『日本経済新聞 2021年11月19日 夕刊8面』



公共図書館部会の展示 (一部加工しています)



高校図書館部会の展示



大学等図書館の展示

(記録：埼玉県立熊谷図書館 関 信子)

ビブリオバトル

中学生のビブリオバトル

県内の中学生を対象に、ビブリオバトルを実施しました。「図書館と県民のつどい埼玉」では 2014 年度から開催されています。

10 回目の開催となる今年は、例年予選を行っていた県民の日に県庁オープンデーに出展するという初めての試みを行いました。

■ビブリオバトルとは

「ビブリオバトル」とは、おすすめの本を持ち寄って 5 分間で本を紹介し、一番読みたくなった本「チャンプ本」を、参加者の投票で決定するという書評ゲームです。

レジュメはなし、プレゼン資料もなし。本と自分の身だけでお気に入りの本の魅力を伝えるゲームは、図書館だけではなく、学校や企業等でも広く活用されています。



■予選会の様子

予選会は、県内 23 の中学校から 23 名のバトラー（発表者）が参加して行われました。5 グループに分かれて発表を行い、それぞれのグループで「チャンプ本」を紹介した 5 名が決勝に進みました。予選会を勝ち抜いた「チャンプ本」5 冊は次の通りです。

（書名五十音順）

『インスタ映えする戦国時代』
スエヒロ / 著（大和書房）
紹介：長澤 大介さん（さいたま市立美園南中学校）

『おかあさんはね』
エイミー・クラウス・ローゼンタール / ぶん
トム・リヒテンヘルド / え
高橋 久美子 / やく（マイクロマガジン社）
紹介：内田 千寛さん（草加市立両新田中学校）

『サクリフェイス』
近藤 史恵 / 著（新潮社）
紹介：手嶋 風介さん（三芳町立三芳中学校）

『正体』
染井 為人 / 著（光文社）
紹介：長谷 紗和さん（さいたま市立与野南中学校）

『ハリー・ポッターと謎のプリンス』
J. K. ローリング / 著
松岡 佑子 / 訳（静山社）
紹介：野村 俊太さん（さいたま市立与野東中学校）

■決勝の様子

決勝は埼玉県庁で行われたイベント「県庁オープンデー」に出展して行われました。

オープンデーの来場者も観戦する中、草加市立両新田中学校の内田 千寛さんが紹介した『おかあさんはね』が見事チャンプ本に選ばれました。

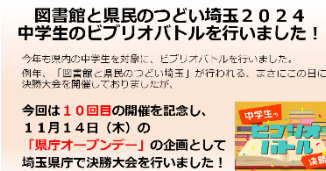
最後に、参加生徒と保護者の皆様、引率いただいた先生方、開催に御協力・御尽力頂いた皆様に御礼を申し上げます。



決勝の様子

■図書館と県民のつどい埼玉 2024 (12月8日) での展示

講演会などが行われた12月8日には、ビブリオバトルについて報告のパネル展示を行いました。用意したバトルの紹介本一覧がすべて配布終了するなど、多くの方にご覧頂きました。(記録：埼玉県立熊谷図書館 川上 未来)



展示パネルの一部

予選会の紹介本一覧

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』
汐見 夏衛 / 著 (スターツ出版)
紹介：数野 瑛人さん (川越市立芳野中学校)

『ある晴れた夏の朝』
小手鞠 るい / 著 (偕成社) (文藝春秋)
紹介：中崎 美空さん (星野学園中学校)

『キャプテン 君は何かができる』
ちばあきお / 原作
山田 明 / 小説 (Gakken)
紹介：町田 遥菜さん (新座市立第四中学校)

『ダレン・シャン』
ダレン・シャン / 著
橋本 恵 / 訳 (小学館)
紹介：魚住 陽花さん (志木市立宗岡第二中学校)

『夏への扉』
ロバート・A.ハインライン / 著
福島 正実 / 訳 (早川書房)
紹介：佐竹 美音さん (草加市立谷塚中学校)

『成瀬は天下を取りに行く』
宮島 未奈 / 著 (新潮社)
紹介：露崎 由夏さん (大妻嵐山中学校)

『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』
J. K. ローリング / 著
松岡 佑子 / 訳 (静山社)
紹介：板橋 璃子さん
(さいたま市立大宮国際中等教育学校)

『晴れた日には鏡をわすれて』
五木 寛之 / 著 (実業之日本社) (KADOKAWA)
紹介：清水 日葵さん
(川口市立高等学校附属中学校)

『人とどうぶつの血液型』
近江 俊徳 / 著 (緑書房)
紹介：立澤 未来さん (越谷市立北中学校)

『二人一組になってください』
木爾 チレン / 著 (双葉社)
紹介：阪本 燈子さん (春日部共栄中学校)

『星が人を愛すことなかれ』
斜線堂 有紀 / 著 (集英社)
紹介：坂本 葉琉さん (熊谷市立別府中学校)

『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ / 著
内藤 濯 / 訳 (岩波書店)
紹介：阿部 雄飛さん (久喜市立鷲宮東中学校)

『また、同じ夢を見ていた』
住野 よる / 著 (双葉社)
紹介：土屋 和奏さん (さいたま市立日進中学校)

『魔の山』
トーマス・マン / 著
高橋 義孝 / 訳 (新潮社)
紹介：柏木 来未さん (戸田市立戸田東中学校)

『UFO がくれた夏』
川口 雅幸 / 著 (アルファポリス)
紹介：吉田 和生さん (さいたま市立田島中学校)

『ラブカは静かに弓を持つ』
安壇 美緒 / 著 (集英社)
紹介：馬 櫻太さん (志木市立志木中学校)

『流浪の月』
凧良 ゆう / 著 (東京創元社)
紹介：豊田 萌々香さん (三郷市立早稲田中学校)

『レフトハンド・ブラザーフッド』
知念 実希人 / 著 (文藝春秋)
紹介：川田 陽菜乃さん
(埼玉大学教育学部附属中学校)

※書名五十音順。決勝に進んだ本は除く。



予選会集合写真

こども読書活動交流集会

出版社が紹介！ おすすめの児童書 2024

■はじめに

本イベントでは、出版社9社の方々にお越しいただき、2024年に出版した児童書の中から自社おすすめ本のアピールポイントや出版にまつわるエピソードを紹介していただきました。

出版社の方をお招きして行うこのような形式のイベントは、こども読書活動交流集会では初の試みでしたが、のべ140名というたくさんの方々にご来場いただきました。

参加出版社（9社）：

岩崎書店、岩波書店、Gakken、小峰書店、さ・え・ら書房、少年写真新聞社、童心社、フレーベル館、ポプラ社（五十音順、敬称略）

■発表の様子

会場となった文学ホールで、各社代表の方1名にご登壇いただき、出版社の方々が作成してくださった素敵なパワーポイントや書画カメラを用いながら、発表が行われました。1社あたりの持ち時間を10分以内とし、発表8分、質疑応答2分で実施しました。出版社の方々の熱意溢れるプレゼンと、今回司会を務めてくださった社会教育士のみちねこさん（木下通子さん）による明るい進行で、会場は大いに盛り上がりました。

各出版社の方々は、作者とのつながりや、企画から本が出版されるまでの道のり、実際には採用されなかった表紙デザインを会場で披露するなど、貴重なお話をしてくださいました。

来場者は、公共図書館や学校図書館の方、ご家族で参加された小さなお子さんなど、幅広い年齢の方々に足を運んでいただきました。



■紹介本一覧（出版社五十音順）

岩崎書店

- ・『虫のからだ1 はね』（新開孝 写真・文）
- ・『虫のからだ2 くち』（新開孝 写真・文）
- ・『虫のからだ3 しょっかく』（新開孝 写真・文）
- ・『虫のからだ4 あし』（新開孝 写真・文）
- ・『虫のからだ5 め』（新開孝 写真・文）

岩波書店

- ・『新装版 輪切り図鑑クロスセクション』（ステイーヴン・ビースティー 画
リチャード・プラット 文 北森俊行 訳）
- ・『ゆきのもりのおくりもの』（リンデ・ファース 文・絵 西村由美 訳）

Gakken

- ・『今日もピアノ・ピアーノ』（有本綾 作 今日マチ子 絵）
- ・『きさらぎさんちは今日もお天気』（古都こいと 作 酒井以 絵）

小峰書店

- ・『わたしは食べるのが下手』（天川栄人 作）

さ・え・ら書房

- ・『自分らしく、あなたらしく
きょうだい児からのメッセージ』
(高橋うらら 著)
- ・『あこがれの図書館』
(パトリシア・ポラッコ 作 福本友美子
訳)

少年写真新聞社

- ・『人にくらす街の虫発見記
ゲッチョ先生の街の虫コレクション』
(盛口溝 文・絵)
- ・『カムイサウルス 世紀の大発見物語』
(植田和貴 文 小林快次 監修)

童心社

- ・『いばらの髪の毛のノラ1 黄金の心臓』
(日向理恵子 作 吉田尚令 絵)
- ・『いばらの髪の毛のノラ2 雨の都と月の竜』
(日向理恵子 作 吉田尚令 絵)
- ・『いばらの髪の毛のノラ3 世界の器』
(日向理恵子 作 吉田尚令 絵)

フレーベル館

- ・『きみの話を聞かせてくれよ』
(村上雅郁 作 カシワイ 絵)
- ・『ショコラ・アソート あの子からの贈りもの』
(村上雅郁 作)

ポプラ社

- ・『待ってる！甲子園
青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦』
(日比野恭三 著)
- ・『万城目学さんと読むビジュアル竹取物語
(作家さんと日本の古典を読みました！
1)』
(万城目学 訳 山田和人 総監修 福田智子、
加藤弓枝、同志社大学古典教材開発研究センター 監修)



■紹介本の展示

会場外には、出版社ごとにスペースを設け、当日紹介した本の展示やチラシなどの配布を行いました。来場者の皆様は、本を実際に手に取ってご覧になり、出版社の方に熱心に質問をされて大変賑わっていました。



■おわりに

出版社の方々の本に対する熱い思いや出版にまつわる秘話を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。来場された方々からは、「各出版社の本への愛が込められたエピソードが楽しかったです。」「読んでみようと思う本が沢山ありました。」などの感想を数多くいただきました。

最後になりましたが、ご参加いただいた出版社の方々、当日の準備・運営等にご協力・ご尽力いただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

(記録：埼玉県立久喜図書館 鈴木 絵理奈)

紙芝居基本講座 ～紙芝居の魅力と演じる喜び～

講師：日下部 茂子 氏
(編集者・大学講師)

日下部さんは、童心社の編集者として多くの紙芝居や絵本を編集され、現在は大学講師として活躍しています。本講座では、紙芝居未経験者・初心者の方に向けて、紙芝居の魅力や演じ方の基本について、実演を交えながらお話しいただきました。

■紙芝居ならではの形式

まずは、『あひるのおうさま』（堀尾青史脚本 田島征三絵 童心社）の実演を例に、「共感する」という紙芝居の魅力に触れていただきたいと思います。

紙芝居は、一枚一枚別々の画面をめくき、差し込むことで物語が進行します。紙芝居には必ず演じ手と観客が必要です。画面の裏に文章があるため、演じ手は観客と向かい合って作品内容を伝えます。舞台を使いましょう。

■紙芝居ならではの特性

紙芝居の形式の特長である「ぬく」動きが、作品世界が部屋の中に出て行き広がる感覚を生み出し、同時に次場面が見えることで作品への集中をつくります。「差しこむ」動きや舞台の扉がその集中をさらに強めます。また、演じ手と観客が向き合い、演じ手の表情やまなざし、動きをよく見て感じることで、演じ手と観客のコミュニケーションが生まれます。これらによって演じ手と観客が作品にこめられた思いを分かちあい、その世界への共感を生み出すことができるのです。これこそ、紙芝居の最大の特性といえます。

紙芝居はコミュニケーションの違いにより、大きく2つのタイプに分けられます。一

つは、作品の構成が作品そのものの中で完結している「物語完結型」です。この型では、演じ手の表情や演じるときの間によって観客とコミュニケーションを生み出します。もう一つが、紙芝居の進行に観客の参加を必要とする「観客参加型」です。言葉のやり取りや動作により演じ手と観客がコミュニケーションをとる型で、紙芝居ならではの特性が強まります。



■絵本の形式と特性

ここまで紙芝居の形式や特性について話してきましたが、絵本とはどのような違いがあるのでしょうか。

絵本は綴じられているため、ページをめくすることで物語が進行します。また、ページ上に文章と絵があるため、読者個人が本と向き合うこととなります。読者が自分のペースで自由にページをめくり、時には戻ることもできる絵本は、作品の世界を「個」として楽しみ、一人一人の感性を深めていくという特性を持っています。

絵本が育む「個の感性」と紙芝居が育む「共感の感性」。これら二つは、人間にとって車の両輪のようにどちらも大切で必要なものです。日本で生まれた紙芝居は「共感」を育てる文化として、世界中から注目されています。未来に向かって生きる子どもたちが豊かに成長していくために、絵本とともに紙芝居も届けていきましょう。

■紙芝居の選び方

よい紙芝居、つまり「ほんものの紙芝居」を見極める際は、次の二点に注目しましょう。一つ目は、「紙芝居ならではの特性」が追求されていることです。二つ目は、作品の「内容」が生きる意味と喜びを追求し、共感で受け止めることができるものであることです。未来に向けて生きる希望・力になるもの、共感で受け止める内容としてふさわしいものを選びましょう。これら二つを土台に「すぐれた絵画と美しい母国語」で表現された作品が「ほんものの紙芝居」といえます。

代表的な作品については、『紙芝居文化の会「おすすめ紙芝居」』として紹介をしています。これらを参考に、自分が共感して演じられるものをぜひ「マイ紙芝居」として手元に持っておくことをおすすめします。

■紙芝居の演じ方

紙芝居を選んだら、次は演じてみましょう。演じる前には、まずその作品を下読みすることが大切です。集中の始まりとなる舞台は、三面開きのものがよいでしょう。観客と向かい合う形で舞台の横に立ちます。立ち位置は、紙芝居場面にある後ろの文章が読めて、観客みんなの顔が見える場所がよいです。舞台の扉を演じ手から見て奥から手前の順にゆっくり開けて、紙芝居をはじめます。まずは作者名とタイトルを読み上げましょう。

内容を演じる時は、作品に寄り添って自分の気持ちをのせて演じます。自分自身の自然な声で演じましょう。

紙芝居は場面をぬき、さしこむことで物語が進んでいきます。画面のぬき方やスピードについては、紙芝居にある指示を参考に、絵をよく見て判断しましょう。この画面のぬきさしで生まれる間が、作品世界に深まりをつくります。

紙芝居の最後には、「おしまい」などのお

わりを表す言葉を言ってから終了するのがよいでしょう。最後に、紙芝居舞台の扉を閉めて終わります。

紙芝居を演じる際は、環境も大切です。背景が雑然としていれば無地の布をかける、窓がある場合はブラインドを閉めるなど、紙芝居の世界に集中できる環境を作りましょう。

■参加者の実演

実演を希望された参加者のうち3名の方に、『いいものなんだ?』（山末やすえ脚本 相野谷由起絵 童心社）、『おとうさん』（与田準一脚本 田畑精一絵 童心社）、『ごきげんのわるいコックさん』（まついのりこ脚本・画 童心社）を演じてもらいました。その後、日下部さんから講評をいただきました。

■『紙芝居文化の会「おすすめ紙芝居」』展示

『紙芝居文化の会「おすすめ紙芝居」』として紹介されている全87点を文学講座室2で展示しました。参加者の皆様にお立ち寄りいただき、紙芝居を直接手に取ってご覧いただきました。



講座終了後も、日下部さんに質問をする参加者の方が多くいらっしゃいました。日下部さんの豊富な経験を踏まえた講義や実演を通し、紙芝居の魅力を改めて感じることでできた講座となりました。

(記録：埼玉県立久喜図書館 石関 莉奈)

公共図書館部会による展示

万城目学さん著作展示

記念講演でお話をいただいた万城目学さんは、小説だけではなく、多くのエッセイも著されています。こうした作品のうち、小説・エッセイの単独著作を18点展示するとともに、著作リストを作成して配布しました。高校図書館部会の展示から、万城目学さんの著作へのポップアップポップもあわせて飾らせていただきました。



また、「漢字一文字であらわす万城目学さん」を県内市町村立図書館職員や県民から募集し、ベスト3を展示会場で発表しました。

県内市町村立図書館へは各館での連携著作展示も依頼し、12市町13館にて万城目学さんの著作展示が展開されました。連携展示の様子は、各館から御提供いただいた写真にて紹介しました。

来場された方は展示している本を手にとる人もいれば、本の紹介POPを見ている人もいました。万城目学さんの講演後には、なんと万城目さんご本人も来場されました。万城目さんは、漢字一文字のポスターを熱心にご覧になっていました。

色々と反省点のあった著作展示ですが、ご協力いただいた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

(記録：蕨市立図書館 小河原 充)

テーマ展示： みんなで楽しもう！ 埼玉のスポーツ

今年度の公共図書館部会のテーマ展示では、埼玉県のスポートクラブに関する展示を行いました。

埼玉県立図書館の埼玉資料室では、埼玉県に関連する様々な資料を所蔵しています。その中から、埼玉県内を拠点として活動するスポートクラブについての資料を並べました。

図書だけではなく、スポーツに関する記事を掲載した雑誌なども、該当ページを開き、来場者に見ていただきやすいようにしました。

2024年のパリオリンピックは、熱狂的な夏をもたらしました。しかし、スポーツ観戦のおもしろさはオリンピックだけではありません。埼玉県内にも魅力的なスポートクラブはたくさんあります。



埼玉県内のスポートクラブ様にお声がけし、チラシ・ポスター・画像・グッズ等をご提供いただきました。

ご協力いただいたスポートクラブ様のおかげもあり、華やかな展示をすることができました。

(記録：埼玉県立久喜図書館 横田茜)

ボードゲーム体験スペース

■はじめに

昨年の「図書館と県民のつどい埼玉 2023」では、「図書館で楽しむボードゲーム」として、ボードゲームのテーマ展示とボードゲームを体験できるスペースを設け、多くの方に興味を持ってもらいました。これを受けて今年もボードゲームの体験スペースを設置することといたしました。

■ボードゲーム体験スペースについて

昨年のボードゲーム体験スペースはやや手狭であったこともあり、今回は1階のスペースと3階の一部屋で実施しました。

1階は短時間でプレイできるボードゲームを、3階ではじっくり遊べるボードゲームを用意しました。



1階はほかの展示やイベントに参加する予定の方が合間の時間に来てくださり、多くの方に見ていただきました。3階に来てくれる方は1階の参加者に比べると多くはありませんでしたが、長時間に渡って何度も遊んでくれる方や、ゲームに参加しなくても展示している図書やボードゲームをじっくり見てくだ

さる方が多くいました。

■ボードゲームと本の展示について

3階の部屋では、ボードゲームに関する図書や、ボードゲームそのものとそれに関連した本の展示も行いました。また、「図書館と県民のつどい埼玉 2023」のボードゲーム展示のうち、公共図書館のボードゲームイベントの紹介部分を掲示しました。



ボードゲームと関連した本の展示では、プレイヤーが協力して感染症の世界的流行に立ち向かうボードゲーム「パンデミック」と感染症に関する本や、小説『八十日間世界一周』とその小説をもとに作られたボードゲーム「八十日間世界一周」、より多くの鳥を集めることをテーマにしたボードゲーム「ウイングスパン」と鳥類図鑑などを展示しました。

■おわりに

今年は実際にボードゲームイベントを行っている市町村図書館や高校図書館の方からもボードゲームを提供していただきました。そのため、昨年よりもバラエティに富んだゲームを用意することができました。

ボードゲーム体験スペースに参加してくださった方々、そしてボードゲーム体験スペースの運営にご協力くださった方々、ありがとうございました。

(記録：埼玉県立熊谷図書館 松田康佑)

ブックケア ＝未来へつながる保存の技術＝



■はじめに

ブックケアでは資料の補修道具・保存に関する展示、2種類の綴じと折丁（おりちょう）づくりを体験できるブース、埼玉県立図書館で作成しているチラシ「きほんのき」の配布を行いました。今年度は職員5名がスタッフとして参加し、展示のご案内や体験コーナーの補助を行いました。

■展示



展示コーナーでは、修理に関する道具、様々な綴じ方で修理を行った冊子、簡単な修理方法・本の取り扱い方の注意点をまとめたチラシなど、パネルと現物の展示を行いました。体験コーナーで実際に取り組むことができる糸綴じや折丁の冊子は、実際に手にとってご覧になる方も多くいらっしゃいました。

ご来場いただいた方からは保存・修理に関するご相談やご質問もあり、スタッフが質問にお答えしました。

■体験コーナー



平綴じ（四ツ目綴じ）、リンク・ステッチ、折丁づくりの3種を体験できるコーナーを設けました。今年新しく設けた折丁づくりは、針を使わなくても簡単に出来る体験で、小さいお子さんにも楽しんで取り組んでいただきました。

今年も盛況をいただき、リンク・ステッチは20人、平綴じ・折丁づくりは12人の方にご体験いただきました。

■「きほんのき」配布



「きほんのき」は、修理の材料や道具、基本的な修理方法について、イラスト付きで分かりやすくまとめた全11種類のチラシです。

埼玉県立図書館ウェブサイト (<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html>) にも掲載しています。

■おわりに

今年もたくさんの方にお越しいただき、たいへんありがたく思います。ブックケアの展示や体験が、今後資料保存について関心を持っていただける機会となりましたら幸いです。

（記録：埼玉県立久喜図書館 高木真奈）

読書のバリアフリー資料展 ～広がれ！読書の多様性～

■はじめに

皆さんは、この記録集をどのように読んでいますか？目で文字を追い、冊子のページを手でめくって、あるいはウェブサイトをスクロールして…。多くの人が想像する読書の形は、このようなものではないでしょうか。

しかし、本の読み方はそれだけではありません。この資料展では、多様なバリアフリー資料や読書支援機器を展示し、様々な読書の形をご紹介します。



■展示の内容

今回展示した資料は、音声デジターやマルチメディアデジターなどの音声を耳で聞いて読むもの、点字図書や布絵本といった触って読むもの、やさしい言葉で書かれたLLブックなど11点です。併せて、デジター再生機やマルチメディアデジター再生用タブレット、小型点字器、読書を支援するリーディングトラッカーといった機器類も展示しました。

来場者には積極的にお声がけをし、実際に資料を手にとって体験してもらうよう促しました。

また、展示の一角には「リーディングトラッカーを作ろう」と題し、細く切ったクリア

ファイルとマスキングテープを使い、リーディングトラッカーを手作りするコーナーを設置しました。当日は29名の方にご参加いただき、自分で作れると思わなかった、職場でも作ってみたいなど、大変好評をいただきました。



■おわりに

来場者は初めてバリアフリー資料を見る方が多く、驚かれたり、感動されたりと好意的なお声をたくさんいただきました。こういった場を契機に、バリアフリー資料を広く普及していきたいと思えます。

もし身近に読書に困難を抱えている方がいらっしゃいましたら、図書館にご相談ください。一人ひとりにあった、読書の形をご提案いたします。



(記録：埼玉県立久喜図書館 小林千草)

高校図書館部会による展示

のぞいてみよう高校図書館

■実行委員

高校図書館部会の実行委員は、地区ネットワークの持ち回りとなって6回目となりました。今年は南部Bネットワーク（浦和・与野地区）から8名、南部Aネットワーク（大宮・浦和地区）から7名の総勢15名が担当しました。実行委員間での情報共有や意見交換をスムーズに行うため、初期段階で専用のGoogle Classroom（学習管理アプリ）を立ち上げました。

■企画

今年度の「図書館と県民のつどい埼玉」全体のテーマである「ひらけ、別世界！」を受けて、多くの来場者からは未知の世界である高校図書館を知ってもらうため、「のぞいてみよう高校図書館」を高校図書館部会のテーマとして設定し、以下の4企画を用意しました。

ポップアップポップ展示

ポップアップクリスマスカードづくり

数字で見る高校図書館2024

高校図書館司書が選んだイチオシ本

■準備

・第1回6/27（木）午後

合同実行委員会 さいたま文学館

実行委員顔合わせ、今後のスケジュール、展示会場の割り振りと下見

・第2回8/19（月）午後 浦和第一女子高校

展示テーマ・企画案検討、使用備品個数確認、当日スタッフ割り当て等

・第3回10/23（水）午後 浦和第一女子高校

各企画の準備の進捗状況、レイアウト、前日・当日の流れ、分担・シフト等の確認等

・第4回11/25（月）午後 浦和第一女子高校

各企画の準備の進捗状況、前日・当日の流れ、

分担・シフト等の確認、記録について等

・第5回1/15（水）午後 大宮中央高校
総括、会計報告、記録、次年度体制等

対面で集合できる機会が限られていることから、Google Classroom を用いて情報共有や意見交換を行いました。これにより、展示資料の収集や内容の事前確認等を容易に行うことができました。レイアウト案や展示スペースの構成や配色など、対面とオンラインで協議を重ね、イメージを実行委員全体で共有しつつ、現在の学校図書館が展示会場の中で伝わるようにと準備を行いました。

■前日・当日

前日は実行委員14名の他に、準備担当のスタッフとして県内の高校図書館司書5名が加わった、19名で会場の設営や各企画コーナーの準備、テーマカラーを中心とした装飾を行い、会場を作り上げていきました。

当日は実行委員13名に当日スタッフとして参加いただいた高校図書館司書14名を加えた27名で来場者への展示案内、手作り体験企画の説明および補助、誘導等を行いました。当日は天候にも恵まれたことからプチホールに509名と多くの方が来場され、反応は一日を通じて上々でした。



■各企画について

ポップアップポップ展示

ポップアップポップはイラストなどを飛び出させる本の紹介ポップです。埼玉県为学校司書が考案しました。

今回は、南部A・Bネットワーク校9校が校内で展示した様子の写真とポップアップポップの作り方、ポップの実物の展示を行ないました。

各校の図書委員が作成したポップ 50 個以上と紹介されている本を何冊か展示しました。力作揃いで多くの来場者が感心していました。



ポップアップクリスマスカードづくり体験

ポップアップするクリスマスカードの製作体験コーナー企画です。配布資料はポップアップ



アップポップ展示と共通の「ポップアップポップの作り方」。最初に色画用紙の色を選んでもらい、白い画用紙と共に手渡します。皆さ

ん、パンチで様々な形に切り抜いた色画用紙やサンタや星などのシール、「メリークリスマス」と書かれた見出しなどをポップアップさせた白画用紙に貼りつけ、オリジナリティにあふれたカードを作成していました。閉会ぎりぎりまで作成する方もいるくらい盛況なコーナーとなりました。

数字で見る高校図書館 2024

令和5年度版の埼玉県高等学校図書館研究会「高校図書館白書」「学校図書館基本調査」を基に、高校図書館の現状を視覚化した掲示物を作成しました。今年度は特別支援学校の図書館紹介に力を入れ、和光特別支援学校と塙保己一学園から写真を提供いただきました。



また、担当した南部Aネットワークの各校貸出ランキングベスト10を掲示、ベスト5資料を配布、各校貸出1位の本を展示しました。学校の特徴が表れた面白い展示になりました。



埼玉県の高校図書館司書が 選んだイチオシ本

1年間の新刊から「高校生におすすめしたい本」の投票を高校司書より募り、ランキングを決定する「イチオシ本」は、2024年版（2025年2月発表）で15回目を迎えます。ブースでは、図書館総合展でも紹介した、イチオシ本の活用事例や味見読書などの新たな活用事例を提案したポスター展示と2023年版ベスト10に選出された図書の展示を行いました。また来場者には、2023年版のベスト10を掲載したパンフレットを配布し、活動についての紹介を行いました。



■おわりに

今年度の「図書館と県民のつどい埼玉」全体のテーマである「ひらけ、別世界！」から、多くの県民の皆さまには別世界である学校図書館について知ってもらうために各企画を設定、準備しました。特に今回高校図書館部会の企画で用意した「ポップアップポップ展示」については、県内の高校図書館司書が考案した、本の紹介ポップの新しい形として県民の皆さまに紹介することができたのではないかと考えているところです。そのほかの企画についても県内の高校図書館の実情が多くの県民の皆さまに伝えられたのではないかと考えています。企画を担当した実行委員の皆さま、前日および当日のスタッフとして会場設営や

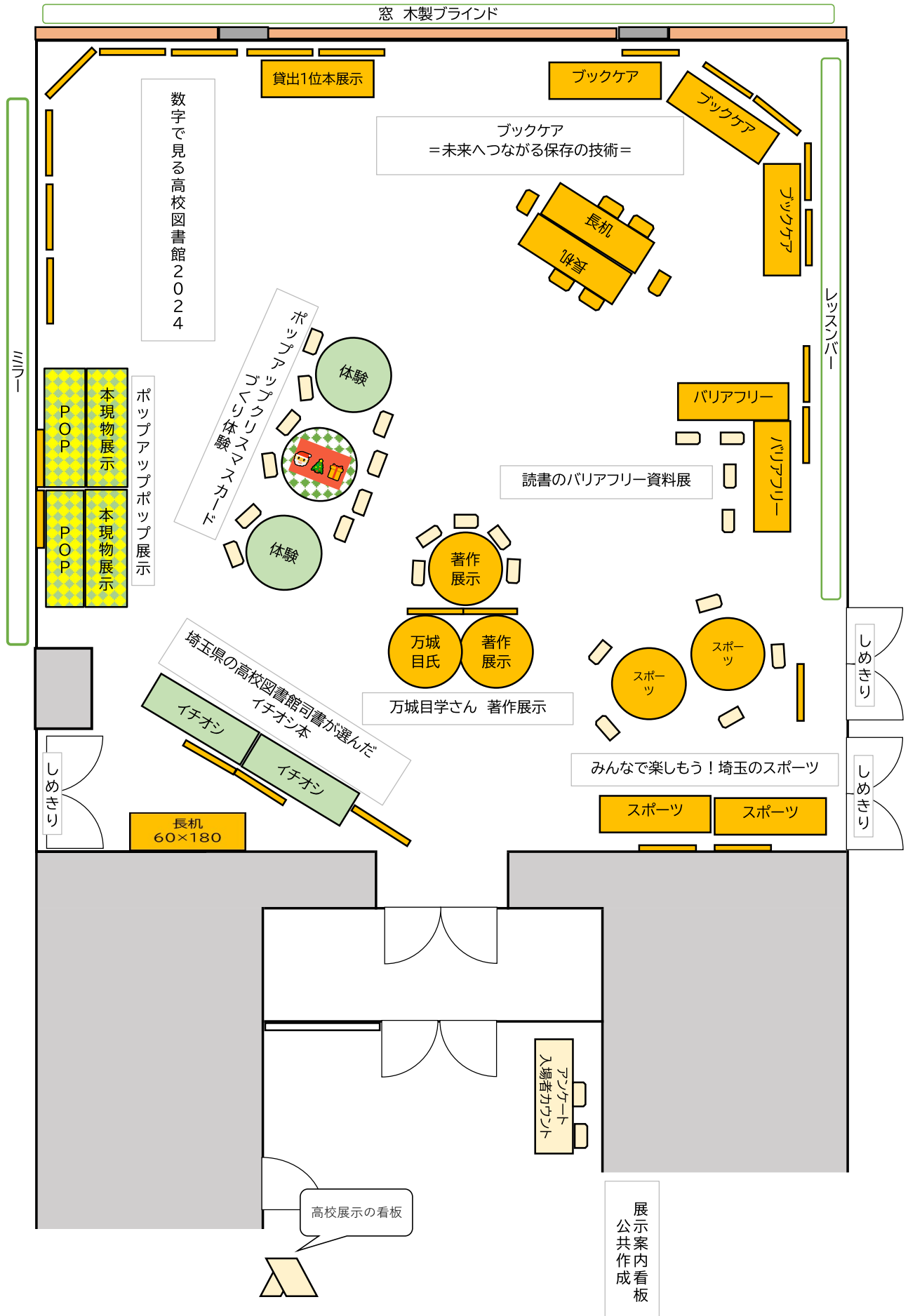
運営を担当した皆さま、企画展示や体験コーナーのために各種情報を提供いただいた県内高校図書館司書の皆さまには、多大なるご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

地区ネットワークによる持ち回りで実行委員を選出している高校図書館部会では、今年度の実行委員の約半数が昨年度から継続して参加できていたということもあり、準備等を比較的スムーズに行うことができたのではないかと思います。このバトンを次年度の実行委員の皆さまにうまく引き継げればと思います。また、せっかく地区ネットワークで実行委員を開催しているので、各地区ネットワークで行われている研修を企画として紹介することができる、高校図書館の新たな魅力を見せることができるのではないかと思います。

（記録：埼玉県立浦和工業高校図書館 森安周平）

「プチホール」内の展示見取図

プチホール内の展示見取図



大学等図書館による展示

SALA加盟図書館所蔵資料展示会

■国立女性教育会館女性教育情報センター ＜日本女性に男女平等の贈りもの ベアテ・シロタ・ゴードンさん

関連資料ご紹介＞

国立女性教育会館（NVEC）は男女共同参画社会実現の推進機関として、研修・調査研究や情報・資料の提供に取り組んでいます。館内の「女性教育情報センター」は男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、約15万冊の図書・地方行政資料の他、雑誌・新聞記事、ミニコミ誌などを所蔵しており、どなたでもご利用いただけます。

今回は、日本国憲法の草案作成に携わったベアテ・シロタ・ゴードンさん、初代館長の縫田暉子さんに関するポスター展示、所蔵資料（一部は近隣の中学生によるポップを付けたもの）の紹介、男女共同参画すごろく・SDGsさんかくしおり・所蔵資料の紹介冊子『本、あり。』の配布を行いました。

【展示資料】

『1945年のクリスマス：日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』ベアテ・シロタ・ゴ



ドン著；平岡磨紀子構成・文
柏書房 1997年

『Pink blue ピンク&ブループロジェクト』ソ・イオン文；ユン・ジョンミ写真；小山内園子訳 タバブックス 2023年
『ジェンダー・ディスカッションブック：SDGsで学ぶ!性別格差がない未来』

プラン・インターナショナル・ジャパン著
きたがわめぐみ作 永岡書店 2023年
合同出版 2024年 他、全12冊
(記録：国立女性教育会館 小川晶子)

■城西大学 ＜身近にある薬用植物

～関連図書と薬用植物を使った小物の展示～＞

今回は「身近にある薬用植物」をテーマに、本学図書館所蔵の漢方古書資料と、薬学部薬学科 生薬学研究室 北村雅史准教授、同じく病院薬剤学研究室 間祐太郎助教推薦の薬用植物に関する図書の展示を行いました。

漢方古書資料はデジタルアーカイブを公開していますが、「図書館と県民のつどい埼玉」での資料展示は2017年以來ということもあり、訪れた方々は普段目にするものがない資料に興味深くご覧になっていました。

会場でお配りした学生アドバイザー作成の身近にある薬用植物を使って作成した小物や、薬用植物園のパフレット、ポストカードなども大変好評をいただき、同園を訪れてみたいという嬉しい声も多くいただきました。

また前年に引き続き、学生アドバイザーが作成したポスターや活動内容を紹介したパネルの展示も行いました。



【漢方古書デジタルアーカイブ】

<https://libir.josai.ac.jp/contents/josai/kanpou/>

【展示本リスト】

https://libopac.josai.ac.jp/opac/opac_search/?amode=2&cmode=0&fc_val=userstag%23%40%23532

(記録：城西大学 豊島 啓子)

■女子栄養大学

＜食でつながる世界～食と栄養を通して、世界をぐるりと旅してみませんか～＞

女子栄養大学図書館では、「食でつながる世界～食と栄養を通して、世界をぐるりと旅してみませんか～」をテーマに、所蔵資料の展示を行いました。日本を含め世界 25 カ国・地域からセレクトした料理本を中心に、ムーミンやハリー・ポッターなどの「物語」に関連する料理本や、本学の専門分野である健康や栄養に関する本を展示しました。同様にデータベース「栄養と料理デジタルアーカイブス」(※)から、「世界の辛～い料理」と題したパネル展示を行い、インドとベトナムのスパイシーな料理の記事を紹介しました。

デジタルアーカイブスの詳しい使い方を聞かれる方もおられました。

※ <https://www.eiyotoryori.jp/>

また、来場者参加企画「食べてみたい世界の料理」では、ラオス、ウクライナ、メキシコの3つの郷土料理を紹介するパネル展示から、食べてみたい料理を選んでいただきました。

来場者からは多くの感想を頂きましたが、なかでも「食べるだけでなく、食べられない方々への考察も重要では」とのご意見が印象的でした。次回の出展テーマのヒントを頂いた様な気がいたします。



(記録：女子栄養大学図書館 矢野大介)

■聖学院大学

＜図書館 de ボードゲーム！＞

近年、ボードゲームのイベントや貸出、展示などを行う図書館が増えてきています。本館では、2016年よりボードゲームに関する様々なイベントや展示を行ってきました。

2021年には、図書館情報学課程の授業の中で学生が「図書館のゲーム型学習教材」を制作する際、実際に様々なボードゲームを体験するというプログラムが生まれ、図書館職員がそのサポートを行っています。また、2023年には、ボードゲームはグループ学習のアイスブレイクや留学生の日本語学習、読書推進に有効であるということで、ボードゲームの貸出も始まりました。そのほか、一般向けイベントとして2024年9月にはOKEGAWA hon プラス+で「言葉や辞書で遊ぼう」と題したボードゲーム体験会を実施しています。

こうした活動が認められ、2024年11月には、本館が「ゲーミング図書館アワード2024」の「審査員特別賞」を受賞しました。

本展示では、本館のボードゲーム活用事例の報告と図書館で貸出をしているボードゲームの展示を行いました。ボードゲームの貸出を行っている図書館はまだ多くはないので、物珍しそうにゲームのカードを手にとってご覧になる一般の方が多く見られました。また、ボードゲームの活用を考えていらっしゃる図書館職員の方からの相談も多く、本展示がボードゲーム導入の一助となり、今後、多くの図書館でボードゲームが図書館サービスとして取り入れられていくことを願っております。



(記録：聖学院大学総合図書館 中山浩二)

■文教大学

<「ほんだな係」によるポップ展示>

「ほんだな係」は、文教大学越谷図書館で活動する学生ボランティア団体です。図書館活性化・読書推進を目的に大学生と図書館職員が協働し、おすすめ本の展示やビブリオバトル、選書ツアー、学生考案イベントなどを企画・実施しています。

2015年の発足時から現在に至るまで、たくさんのおすすめ本を展示してきました。手作りの紹介ポップは、本の魅力が伝わってくるものばかりです。今回は、そんな歴代メンバーのこだわりがつまった紹介ポップとおすすめ本の展示を行いました。来場された方々には、幅広い種類のポップと本を楽しんでいただけたほか、掲示物や配布物を通して「ほんだな係」の活動内容を知っていただけたのではないかと思います。

他団体の取組事例や所蔵資料などにも触れることができ、学生も職員も学びの多い一日となりました。今回得た知識や情報を今後の企画立案に活かし、「ほんだな係」の活動の幅を広げていければと思っております。



(記録：文教大学越谷図書館 柏 優果)

■山村学園短期大学

<色々な絵本や保育学生の作品>

本学は、比企丘陵の鳩山町に位置し、子ども学科を置く短期大学です。周囲を広葉樹林に囲まれ、図書館の窓外には、四季折々に変化する景色が広がっています。保育士や幼稚

園教諭を養成する上で、自然に触れて「遊んで学ぶ」ことの大切さを身につける良い環境となっています。

図書館では、学科の専門書の他、特に行事や実習で利用される絵本・紙芝居を多く揃えています。また、後輩への参考のため、時折り学生の作品も紹介しています。創作絵本や木の実などで作った「空想生物標本」など楽しい作品があるので、今回は大型絵本や仕掛け絵本と共に展示しました。

また、図書館は絨毯敷きとなっており利用者は入口でスリッパに履き替えます。絵本コーナーでは大型絵本を絨毯に広げることも出来、くつろいだ環境で読書を楽しんでいます。今回は、提案として、ティピテント（1本のポールで立ち上げるテント）を持参し、その中で絵本を読む体験もして頂きました。



(記録：山村学園短期大学図書館 品川今日子)

■国際学院埼玉短期大学

<学生図書委員会

本当に役に立った！私たちの1冊>

本学は、幼児保育学科、健康栄養学科（食物栄養専攻・調理製菓専攻）を設置する短期大学です。教育活動の一環として全学生が委員会に所属しており、図書委員会は全20名（各クラス2名）の委員が学生主体の活動を

行っています。

4月、新図書委員長・副委員長は、今年度の活動を企画します。スマホで何でも調べられる今、どうしたら学生が図書館にもっと足を運んでくれるのか。企画を持ち寄った3名が目を見せたのは、「試験や課題、実習で実際に役に立った本を集めて、図書委員会のおすすめ本棚を作る」でした。

初参加の今回、読書週間に実施した企画「本当に役に立った！私たちの1冊」を、委員長・副委員長から紹介させていただきました。本学のブースには、102名の方にお立ち寄りいただきました。誰もが知っている絵本『14ひきのシリーズ』のカバーに仕込まれたしかけや、小学生も参考になる栄養素図鑑、懐かしの給食メニューなど、本学学生ならではの選書に、図書館関係者の皆様も関心を持たれ、会話が弾みました。

また、他大学や高校図書館、出版社等の企画にも参加し、これまで知らなかった図書館の世界に刺激を受け、次年度に繋がる貴重な経験をさせていただきました。



(記録：国際学院埼玉短期大学附属図書館 谷地 英里)

■獨協大学

<ドイツとフランスのモダニズムを映す貴重書群>

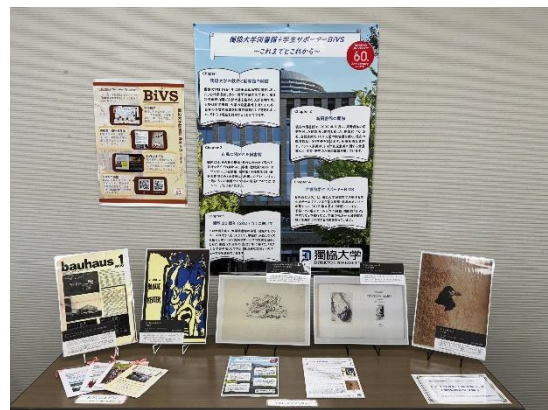
獨協大学は2024年度に創立60周年を迎えました。それを記念して、獨協大学図書館と学生サポーター「BiVS (ビボス)」の協働

ではじめて出展し、活動紹介のポスター展示や、図書館所蔵の特別コレクション「ドイツ表現主義文庫」「鈴木信太郎文庫」のパネル展示を行いました。

「BiVS」は、“Bibliothek”（ドイツ語で図書館の意）Volunteer Supporterの略称で、「図書館を応援する」という意味が込められています。2015年4月に発足し、さまざまな学部・学年のメンバーが集まって、季節ごとの展示やSNSでの発信、機関誌「BiVSの本だな」の発行など、学生の視点から図書館の魅力を外部に発信する活動を行っています。

「ドイツ表現主義」は、20世紀初頭にドイツで興った芸術運動であり、バウハウスなど後世の文化・芸術にも大きな影響を及ぼしました。また、鈴木信太郎(1895-1970)は著名なフランス文学研究者で、19世紀フランスの象徴派の詩人たちの作品を蒐集しており、ご遺族から所蔵資料の寄贈を受けました。本館ではこれらの資料を「ドイツとフランスのモダニズムを映す貴重書群」として保管しています。

当日は多数の方にブースにお立ち寄りいただき、ありがとうございました。これからも、獨協大学図書館および学生サポーター「BiVS」の活動にご注目ください。



(記録：獨協大学図書館 小暮 昌敏)

■立正大学

<オリジナルグッズ製作体験！>

立正大学熊谷図書館の学生協働団体「ぶっくま(※)」を中心に、本学で利用提供している「缶バッジマシン」と「レーザーカッター」を使用し、来場者が本学オリジナルの缶バッジとしおりを製作できるイベントを実施いたしました。自分で入力した文字が板(しおり)に刻印される瞬間を興味深く観察される参加者が多く、昨年に続き幅広い年代層の方にお楽しみいただけたのではないかと思います。

一方で、本学で扱う機器等(レーザーカッター、3Dプリンター、ボードゲーム等)に対し「なぜ図書館で…？」と疑問を持たれる方も多くいらっしゃいました。アイデアの具現化には知識や技術に加えて、発想力や課題発見力、グループ活動にはコミュニケーション能力や他者理解等も必要不可欠です。図書館が提供する学びの一環として“創造的な学修空間”を設けることで、紙媒体の資料と併用するからこそ得られる実践的な学び、プロセスの提供や、経験の蓄積、各種スキルの育成等を期待しています。

※「ぶっくま」は立正大学熊谷図書館で働く学生の団体名称です。2019年度に発足し現在15名で活動中です。図書・広報・資料保存業務など多岐にわたる活動を行っています。



(記録:立正大学熊谷図書館 佐々木、吉野)

■SALA 学生協働有志団体

<SALA 学生協働活動 2024 の映像放映>

今年度は埼玉県大学・短期大学図書館協議会(通称SALA)の新たな試みとして、各大学の学生協働団体(学生スタッフ、ボランティア、サークル等)が連携し活動を行いました。「図書館と県民のつどい埼玉」では、各種イベントの開催告知ポスターの展示および映像(イベント実施風景)の放映を行いました。

学生協働交流会について、第1回(会場:城西大学)では価値観ゲームやグループディスカッション等、コミュニケーションを重視したプログラムを実施し、第2回(オンライン開催)では「全国大学ビブリオバトルブロック決戦」の運営説明会を実施、第3回については3月に駿河台大学にて開催予定です。

11月に開催された「全国大学ビブリオバトルブロック決戦」では各大学から有志を募り「彩の国大学生ビブリオバトル実行委員会」として事前準備から当日の運営まで行いました。12月には「2024(令和6)年度 第36回研修会」で活動報告やパネルディスカッションを行う等、取り組みの幅を広げています。来年は映像放映に加えポスターセッションや各種イベントを開催できるよう加盟館全体での連携を続けていきたいと思っています。



(記録:立正大学熊谷図書館 佐々木 綾花)

協賛

協賛企業展示

今年度は、御協賛いただいた企業様のうち、株式会社伊藤伊様、株式会社ポプラ社様の2社に出展いただきました。

各企業様ともに1階ロビーで展開していただき、パネルや商品のサンプル、各種書籍等の展示のほか、パンフレットやブックリスト等の配布も行われました。



株式会社伊藤伊



株式会社ポプラ社

協賛品

各企業様から以下の協賛品を御提供いただきました。改めて御礼申し上げます。

提供いただいた協賛品は、中学生のビブリオバトル(予選会・決勝)に出場された生徒の皆さんや、万城目学さん記念講演に参加された方々へ配布しました(紹介順不同、敬称略)。



【埼玉新聞社】

ビブリオバトル用トロフィー



【株式会社伊藤伊】

オリジナルミニブックキット

(和装本)



【株式会社ポプラ社】

ブックカバー、しおりセット
アッチの指人形



【キハラ株式会社】

BookBIG クリップ

ライブラリーワッペン

図書館じしゃく

リーディングレコードノート



【社会福祉法人埼玉福祉会】

図書館司書プチ体験セット

ブックコートフィルム

トートバック



【NetGalley (ネットギャラリー)】

ボールペン

クリアファイル



【一般社団法人YA出版会】

YA朝の読書ブックガイド2024

図書館と県民のつどい埼玉 2024 関係者名簿

(敬称略・順不同、所属は令和6年12月現在)

企画委員会

滝沢 慎 (三郷市立彦糸中学校、埼玉県学校図書館協議会)
 森安 周平 (埼玉県立浦和工業高等学校、埼玉県高等学校図書館研究会)
 武川 葉月 (埼玉県立浦和西高等学校、埼玉県高等学校図書館研究会)
 木下 通子 (埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県高等学校図書館研究会)
 須貝 俊 (埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課)
 神原 陽子 (埼玉県立久喜図書館)
 大島 恵津子 (埼玉県立熊谷図書館)

実行委員会 ★：企画委員を兼任

○こども読書活動交流集会
 青木 さち子 (おはなしの会「虹」) 大澤 尚美 (鴻巣よみきかせの会)
 中村 涼子 (浦和子どもの本連絡会) 米田 佳子 (トムの会)
 ★神原 陽子 (埼玉県立久喜図書館) 佐藤 綾子 (埼玉県立久喜図書館)
 石関 莉奈 (埼玉県立久喜図書館) 鈴木 絵理奈 (埼玉県立久喜図書館)

○公共図書館部会

★大島 恵津子 (埼玉県立熊谷図書館) 坂本 早希 (埼玉県立熊谷図書館)
 森 奈穂子 (埼玉県立熊谷図書館) 横田 茜 (埼玉県立久喜図書館)
 高木 真奈 (埼玉県立久喜図書館) 松田 康佑 (埼玉県立久喜図書館)
 小河原 充 (蕨市立図書館) 家根本 ありか (埼玉県立久喜図書館)

○高校図書館部会

★森安 周平 (埼玉県立浦和工業高等学校) ★武川 葉月 (埼玉県立浦和西高等学校)
 西山 千夏 (埼玉県立いずみ高等学校) 岩岡 朗子 (埼玉県立浦和北高等学校)
 富田 千紘 (さいたま市立浦和南高等学校) 田浦 さとみ (埼玉県立浦和商业高等学校)
 ★木下 通子 (埼玉県立浦和第一女子高等学校) 佐々木 美和子 (埼玉県立常盤高等学校)
 長沼 祥子 (埼玉県立与野高等学校) 加々美 祐江 (埼玉県立浦和高等学校)
 穂積 絵理子 (埼玉県立大宮高等学校) 青木 涼 (埼玉県立大宮光陵高等学校)
 尾澤 咲 (埼玉県立大宮中央高等学校) 荻原 花奈 (埼玉県立大宮南高等学校)
 小幡 あい (埼玉県立大宮武蔵野高等学校)

○中学生のビブリオバトル

★滝沢 慎 (三郷市立彦糸中学校) 宮下 紗矢香 (さいたま市立中央図書館)
 長谷川 綾音 (さいたま市立中央図書館) 原田 真帆 (上尾市立図書館)
 隅田 由香利 (志木市立柳瀬川図書館) ★木下 通子 (埼玉県立浦和第一女子高等学校)
 新井 直也 (埼玉県立深谷高等学校) 杉本 太志 (埼玉県立白岡高等学校)
 釜泡 亮 (埼玉県立草加南高等学校) 小林 千草 (埼玉県立久喜図書館)
 林 夢果 (埼玉県立熊谷図書館)

大学・短期大学図書館、類縁機関の代表者

中山 浩二 (聖学院大学、SALA 学生協働有志団体) 小川 晶子 (国立女性教育会館)
 関口 千登世 (城西大学、SALA 学生協働有志団体) 矢野 大介 (女子栄養大学)
 畔上 幸子 (文教大学、SALA 学生協働有志団体) 品川 今日子 (山村学園短期大学)
 佐々木 綾花 (立正大学、SALA 学生有志協働団体) 谷地 英里 (国際学院埼玉短期大学)
 小暮 昌敏 (獨協大学、SALA 学生協働有志団体)

スタッフ・協力

○こども読書活動交流集会
 山田 モニカ (おはなしの会「虹」) 斉藤 まり (おはなしの会「虹」)

○公共図書館部会

小柳 直士 (埼玉県立久喜図書館) 松本 芽生 (埼玉県立久喜図書館)
 吉田 奈緒子 (埼玉県立久喜図書館) 小林 千草 (埼玉県立久喜図書館)
 八重樫 貴子 (埼玉県立熊谷図書館) 吉田 絢乃 (埼玉県立熊谷図書館)
 篠崎 加奈 (埼玉県立熊谷図書館) 藤井 秀平 (本庄市立図書館)
 福田 進哉 (志木市立柳瀬川図書館) 畑中 智美 (朝霞市立図書館)
 小野 裕之 (埼玉県立越谷総合技術高等学校)
 上村 まりを (静岡県立中央図書館)

○高校図書館部会

高橋 愛子 (埼玉県立上尾高等学校) 浅川 瑞貴 (埼玉県立北本高等学校)
 中尾 一馬 (埼玉県立桶川高等学校) 泉谷 亜紀 (埼玉県立桶川西高等学校)
 小川 奈緒 (埼玉県立伊奈学園総合高等学校) 太田 佳那 (埼玉県立伊奈学園総合高等学校)
 大屋 美穂 (埼玉県立鴻巣高等学校) 稲森 千夏 (埼玉県立上尾南高等学校)
 中島 聡美 (埼玉県立大宮商業高等学校) 神田 卓臣 (埼玉県立大宮工業高等学校)
 長谷川 優子 (さいたま市立大宮北高等学校) 平岡 英里 (埼玉県立浦和東高等学校)
 堀 真由美 (埼玉県立特別支援学校埼玉保己一学園)
 塚本 有美 (埼玉県立吹上秋桜高等学校) 会田 佳之 (埼玉県立新座総合技術高等学校)
 武藤 圭佑 (埼玉県立深谷商業高等学校) 新井 直也 (埼玉県立深谷高等学校)

○大学等図書館ほか

豊島 啓子 (城西大学) 宮内 博子 (城西大学)
 星野 咲希 (国立女性教育会館) 吉野 麻貴 (国立女性教育会館)
 中安 眞弓 (女子栄養大学) 増田 奈美 (女子栄養大学)
 藤倉 恵一 (文教大学) 柏 優果 (文教大学、SALA 学生協働有志団体)
 吉野 和真 (立正大学、SALA 学生有志協働団体)
 中村 優奈 (立正大学 学生) 木本 康太 (立正大学 学生)
 熊谷 朋香 (立正大学 学生) 田島 葉里 (立正大学 学生)
 馬場 和久 (国際学院埼玉短期大学) 蛭田 知明 (国際学院埼玉短期大学)
 山本 星史瑠 (国際学院埼玉短期大学 学生) 奥野 真由子 (国際学院埼玉短期大学 学生)
 近藤 杏里 (国際学院埼玉短期大学 学生)

埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会

古垣 玲 (埼玉県教育局教育総務部長)
 小谷野 幸也 (埼玉県教育局教育総務部副部長)
 今井 久典 (埼玉県図書館協会会長・埼玉県立久喜図書館長)
 小西 康雄 (埼玉県図書館協会理事長・埼玉県立熊谷図書館長)

○事務局スタッフ

(埼玉県教育総務部生涯学習推進課)

須貝 俊

(埼玉県立熊谷図書館)

川目 晴久 関 信子 飯田 優子 宮崎 達弥
 川上 未来 林 夢果 浅見 将巳 大森 瑞姫
 砂生 拓哉 内田 碧美 佐藤 友未 大川 万里
 福士 明日香 八重樫 貴子 阪田 菜月 池谷 博

(埼玉県立久喜図書館)

町田 智 長島 利弘 鈴木 麻友

(埼玉県立深谷高等学校)

新井 直也

(埼玉県立草加南高等学校)

釜瀧 亮

「図書館と県民のつどい 2024」の開催に御協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

図書館と県民のつどい埼玉 2024

—みんなが「図書館」でつながる日—

図書館と県民のつどい埼玉 2024 のキャッチコピー

「ひらけ、別世界！」

- 趣旨
- 1 県内図書館の様々な活動を県民に紹介することで、図書館に対する県民の理解を深め、親しみを持ってもらう
 - 2 県民との交流を通じて、より良い図書館サービスを考える契機とする
 - 3 県内の子供読書活動に携わる方々や、公共図書館・大学図書館・高校図書館等の協働により実施することで、図書館に関わる連携を深める
 - 4 県民の読書環境がより豊かなものとなるよう、書店・出版社・新聞社など文字・活字文化を支える団体と図書館との連携を図る

日時 2024年12月8日(日) 10:00~16:00

会場 桶川市民ホール・さいたま文学館

内容

- 記念講演「読書ときどき執筆の日々」 講師 万城目 学さん
- 中学生のビブリオバトル
(2024年11月14日(木) 埼玉会館及び埼玉県庁を会場として実施)
- 展示
 - ・万城目 学さん著作展示
 - ・ボードゲーム体験スペース
 - ・みんなで楽しもう!埼玉のスポーツ
 - ・ブックケア 未来へつながる保存の技術
 - ・読書のバリアフリー資料展～広がれ!読書の多様性～
 - ・ポップアップポップ展示

- ・ポップアップクリスマスカードづくり体験
- ・数字で見る高校図書館2024
- ・埼玉県の高校司書が選んだ イチオシ本2023
- ・SALA加盟図書館所蔵資料展示会
- ・協賛企業展示
- こども読書活動交流集会
 - ・出版社が紹介！おすすめの児童書2024
 - ・紙芝居基本講座～紙芝居の魅力と演じる喜び～
講師 日下部 茂子 さん

主催 埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会、
埼玉県高等学校図書館研究会

共催 さいたま文学館

後援 桶川市、桶川市教育委員会

NHKさいたま放送局、FM NACK5、テレ玉

公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部

埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）

埼玉県書店商業組合、

一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPI C）

公益財団法人 文字・活字文化推進機構

協力 公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部助成事業

株式会社 文藝春秋、埼玉県芸術文化祭2024 協賛事業

協賛 株式会社 伊藤伊、キハラ株式会社、埼玉新聞社、
社会福祉法人 埼玉福祉会、NetGalley（ネットギャラリー）、
株式会社 ポプラ社、一般社団法人 Y A 出版会

御来場いただきました皆様、共催・後援・協力・協賛をいただきました
企業・団体の皆様、運営に御協力いただきましたボランティア並びに
実行委員等の皆様に、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



ひらけ、
別世界!

図書館と県民のつどい埼玉 2024

令和7年3月刊行

編集・発行 埼玉県図書館協会（埼玉県立熊谷図書館内）

〒360-0014 熊谷市箱田 5-6-1 TEL 048-523-6291 FAX 048-523-6468